

2023年4月1日

## 神戸学園都市 YMCA こども園 4月えんだより

年主題 『 ともにつむぎだす ~希望の中で~ 』

年主題聖句 「キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。」

<エフェソの信徒への手紙2章17節>

新入園のみなさま、ご進級のみなさま、おめでとうございます、

各地から桜の便りが届いていますが、その多くが平年より随分早いものとなっています。以前は入学式の花であった桜が、今は卒業式の花となっているようです。とはいえ、新しい出会いと歩みを、そして何より、新しい命の季節を感じさせてくれる桜の下でともに新しい歩みを始めていきたいと思えます。

「這えば立て、立てば歩めの親心」誰もが良く知ることの成長を待ちわびる親の気持ちを詠ったものです。生まれて間もない赤ちゃんは、首が座り、寝返りを打つようになります。そして、お座り、ずり這い、高這い、つかまり立ちから伝い歩き、一人歩きへと成長していきます。けれども最近は、この流れと違った成長をする赤ちゃんも多くみられるようです。このうたが詠まれたのは300年以上前の江戸時代中期。まさしく「和」の生活様式の時代ですが、今は多くの家庭で「洋」の生活様式となっています。そのような生活様式の変化も成長過程に大きく影響しているのかもしれませんが、少くも違った流れであっても、最後の段階の「一人歩き」ができるようにこどもの力を信じ、希望をもって見守り続けていくことが大切だと思えます。

この春、私たちに大きな喜びを与えてくれた侍ジャパンの活躍。その活躍の中でよく耳にしたのは「信じていた。」という言葉でした。監督が各選手を。選手同士がお互いを。その気持ちは言葉だけでなく、選手たちの多くのプレーの中にも表れていたように思います。そして、監督をはじめすべての選手が心から野球を愛し、楽しみながら「絶対に勝つ！」ことを信じてプレーしている姿がとても印象的でした。

新しい一年の始まり、こどもたちを愛し、こどもたちの力を信じ、こどもたちと共に保護者の皆様、保育者が手を携えて、「こどもまんなかこども園」として、神様の大きな愛の下での新しい歩みを楽しみたいと思えます。

4月聖句 「子どもたちをわたしのところに來させなさい。」

<マルコによる福音書10章14節>

4月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	おはよう	であう
月の願い	*神様の見守りの中で、新しい環境に出会い春の心地よさを感じながら安心して過ごしてほしいと思えます。	*新しい友だちや保育者、春の自然、あそびなど様々なものとの出会いを喜び、期待を持って過ごしてほしいと思えます。
讃美歌	ひとりひとりのなをよんで 幼児讃美歌II 20	